

## 事例 2

# 反抗挑戦性障害を伴う場合

目がつりあがり、教師に向かって暴言を吐く。注意したり叱責したりすると、さらに興奮し、教室を飛び出す。こういった子ども達について考えましょう。

## 場面



小学校4年生のC君。授業中に、よく奇声を発することがありました。最初のうちは、注意をすればやめていたのですが、次第に言うことをきかなくなり、最近では注意をすると教師に暴言を吐き、暴れるようになりました。

## 原因と対応

C君が教師の言うことを聞かなくなったり、暴れるようになった原因と、奇声を発した時の望ましい対応を考えて、下に書きましょう。

原因

対応

## ■ 解説

### 【原因】 度重なる叱責により反抗挑戦性障害を呈したから

大人の言うことをきかず、挑発を繰り返し、周りの人間に対して、故意に苛立たせる行動を繰り返す障害を、**反抗挑戦性障害**という。小さい頃から度重なる注意や叱責を受け続けることで、情緒的にこじれてしまうことが、原因といわれている。

アメリカ精神医学会の診断基準DSM-IVでは、次のような診断基準が示されている。

#### 反抗挑戦性障害 Oppositional Defiant Disorder

A. 少なくとも6カ月持続する拒絶的、反抗的、挑戦的な行動様式で、以下のうち、4つ（またはそれ以上）が存在する：

- (1)しばしばかんしゃくを起こす。
- (2)しばしば大人と口論をする。
- (3)しばしば大人の要求、または規則に従うことを積極的に反抗または拒否する。
- (4)しばしば故意に他人をいらだたせる。
- (5)しばしば自分の失敗、無作法な振舞を他人のせいにする。
- (6)しばしば神経過敏または他人からいらいらさせられやすい。
- (7)しばしば怒り、腹をたてる。
- (8)しばしば意地悪で執念深い。

注：その問題行動が、その対象年齢および発達水準の人に普通認められるよりも頻繁に起こる場合のみ、基準が満たされたとみなすこと。

- B. その行動上の障害は、社会的、学業的、または職業的機能に臨床的に著しい障害を引き起こしている。
- C. その行動上の障害は、精神病性障害または気分障害の経過中にのみ起こるものではない。
- D. 行為障害の基準を満たさず、また患者が18歳以上の場合、反社会性人格障害の基準も満たさない。

平山諭『ADHD児を救う愛の環境コントロールー大切なのは心を追いつめないこと』（ブレーン出版）

### 【対応】 安心、満足を感じる神経ネットワークをつくる

平山諭氏は、安心感を与えるために、次の5つのスキルをあげている。

#### ①見つめるスキル

子どもに安心感を与えるやさしい目線。

#### ②ほほえむスキル

緊張せずに（力を入れすぎず）、口を軽く開け、子どもに安心とかわいらしさを感じさせる。

#### ③話しかけるスキル

- ・受容的、共感的に話す：「そうだよね」「わかるよ」「どうする？」など
- ・希望や見通しがもてるように話す：「大丈夫だよ」「あと3回できたらぱっちりだよ」など
- ・状況に意味付けするように話す：「それでいいんだよ」「100点だね」など

#### ④さわるスキル

愛情を感じさせるようにさわる。タッチケア。

#### ⑤ほめるスキル

努力している状態や経過、事実や準備状態を評価し、動機づけをする。

平山諭『ADHD症状を抑える授業力！ー特別支援教育の基本スキル』（明治図書）

反抗してきたことにいちいち反応するのではなく、他人に大きな迷惑をかけていなければ、時には見逃すことも必要である。それよりも、頑張っていることをしっかりほめ、認めてやることで、安心、満足を感じる神経ネットワークを作っていくことができる。

## 暴れたり乱暴をするA君を救ったTOSS教師

ある小学校。担任はヴェテランの男性教師。問題解決学習で有名な教師で、他校にも講演にでかける。担任する4年生のクラスに、グレーゾーンのA君がいた。

A君には、「問題解決学習」のやり方は通用しない。

ワーキングメモリ(作業記憶)が、1つに集中するため、問題解決学習のように、「あれこれ」を、ゴチャゴチャにしたやり方は、できないのだ。「一時に一事」の指導ならやることができる。

といって、A君が「勉強ができない」わけではない。

「問題解決学習」の方法が駄目なのだ。

そういう人は、歴史上いくらでもいる。

エジソンも、坂本龍馬も、ケネディもそうだったという。

周りに、子どもの事実を大切に、母や姉などの教育者がいたのだ。

「子どもの事実」に無知、無関心な、問題解決学習は、「グチャグチャな指示」をA君に押しつけた。

当然A君はできない。

「算数なんか分からない」「何やったらいいんだ」と、教師に反発するようになった。

教室は脱走するは、暴れるはで、学級は大混乱になった。

母親を呼びつけて監視させたが駄目。

夜遅くまで職員会議を何回もやったが、解決方法はなし。

手のあいた教師が、授業中のA君を監視する体制をとった。

それも1人ではない。2人体制、3人体制と増えていった。

問題解決学習のヴェテラン教師は、職員室や職員会議で、A君が駄目なことを何度も何度も言っていた。

母親にも、「こんな子は見たことがない」とおどかしていた。

これが、算数の問題解決学習のヴェテラン教師の実力である。教師としての品性が、いかに低いかを物語っている。

たった一人のA君にふりまわされ、監視体制でしか、対応できなかったのである。

不勉強な教師が、どのような教育をするかという見本だ。

このままいけば、A君の心はズタズタにされ、「反抗挑戦性障害」は、更に激化していただろう。

家庭はズタズタになっていただろう。

一人の人間の前途と、一つの家庭の幸せが失われつつあったのである。

幸いなことにその小学校にTOSSの教師が一人だけいた。

全校で、「問題解決学習」をやる学校で、「向山型算数」をやる教師が一人だけいたのである。

学校中で手をやいていたA君を、一人問題解決をやらずにやっかいものだったTOSS教師が担任した。

TOSSの教師は、A君がなぜ授業中暴れるのか、なぜ乱暴になるのかを理解していた。

TOSSが開発した、さまざまな指導法も身につけていた。

A君は、どうなったのか？

TOSSの指導法に、みるみるうちにとけ込んでいったのである。

一度も脱走をしなかった。

漢字も計算も、みるみるうちに実力をつけていった。

みんなとのトラブルも少なくなり、人気者になっていった。

母親から、感謝の便りが届いた。

教師が勉強しているか、していないかで、これほど違うのである。

勉強しない教師は、「教師という名に於て」「正しいことをしている」と信じつつ、実は「犯罪的行為」をしているのである。

このことを広く、あまねく、教育者に訴えていかねばならない。

## 暴力を振り、目がつりあがっていたA君が 授業後、深々と礼をしお礼を言った

目がつり上がっている。すぐ友達を殴る。父親と二人暮らしをしている。ノート・教科書がない。授業中奇声を発する。4年生でかけ算ができない。

A君は、そんな子だった。

3年生では学年主任の先生がA君の担任だったが、「Aは全くしょうがない」が職員室での口癖だった。

4年生でA君の担任になった。

算数の授業開きの時間。A君のノート・教科書を開いておき、ノートに赤鉛筆で日付をうすく書いておいた。授業開始後、即言う。

「日付、ページ数、『大きな数』と書いたら、ノートを持ってきましょう」

他の子はキョトンとしている。そんな中、A君が2番目に持ってきた。

「A君2番、早い！！」

大きな数の基本型となる表を写させる。みんなが真剣に写している時、A君の側に行き、そっと赤鉛筆で薄く書いた。1つなぞれるごとに短くほめた。それを何回も続けた。

そして、数値を記入する段階、もちろん、赤鉛筆で薄く書いてあげる。A君は一生懸命にそれをなぞった。1つなぞれるごとに、丸をつけてあげた。A君のノートには丸がたくさんついた。

チャイムがなる1分前に授業を終了した。

職員室へ向かうため廊下に出ると、「先生……」と呼ぶ声が聞こえた。振り向くとA君が、うつむきながら立っていた。赤鉛筆で薄く書くことが、彼の自尊心を傷つけたのかと思い、とっさに私は、「ごめんね。赤鉛筆で答えを書いちゃって」とあやまろうとした。

しかし、そうではなかった。私があやまろうとしたその瞬間、A君はうつむいていた顔を上げ、まっすぐに私を見て言った。

「先生、僕のノートにたくさん丸をつけてくれて……。あ、ありがとうございます！」

あのA君が、深々と、深々と頭を下げた。

3年生まで、できなくて苦しんでいた彼の辛さ、みんなと同じように分かりたいという思い、そして、丸をつけてもらった時の喜びの顔が、一瞬のうちに私の頭の中を駆け巡った。

次の瞬間、思わず私は彼を抱きしめていた。

それから2ヶ月後、3年生までテストで10点や20点しか取ったことのなかったA君が、整数のわり算テストで100点をとった。テスト返しの時、「A君、100点！」と言ってテストを返すと、彼は何度も何度も跳び上がって喜んでた。

学年主任が手をやいたA君に、頭を下げられるのに「わずか1時間の算数の授業」で良かったのである。

教科書を使った、一時に一事の指示と赤鉛筆の教師の丸が、A君をとらえたのだ。

問題解決学習とは正反対の方法である。

## 事例 8

# 「嫌だ」と反発する

注意をするとすぐに反発する子がいます。  
彼らにどのように対応すればいいのでしょうか。

## 場面



4年生のJ君は、授業中暴言をはいたり、立ち上がってふざけた行動をしたりするなど、教師を挑発するような言動をとります。不安感が強く、することが分からないと渡していたプリントを破ったりします。

## 対応を考える

授業中の暴言や勝手に立ち上がってふざけた行動するのを、やめさせるためにはどのように対応すればいいのでしょうか。  
下に書きましょう。

## NG対応

### 大声で叱る

J君の挑発するような言動に、間違っても教師が興奮し、大声で叱るなど過剰に関わらないことです。過剰に関われば関わるほど、余計にひどくなることがあります。

この場合、立ち歩いたり、教師の方に向かってきた時も、力づくで戻すようなことはせず、無言で、背中をさすりながら、席に戻るようしていきます。

## ■ 解説

### 【対応1】 教師を挑発するような言動には冷静に対処する

教師を挑発するような言動をとるということは、大人を試しているのかもしれない。このような時、教師も頭に血が上り、正面から対峙してしまいがちである。そんな時は、子どもと一緒にレベルで対決するのではなく、以下のようにするとよい。

言動は、その子の脳がさせていると考える

必ずしも、深い考えがあったり、教師を本心から嫌って言っているわけではない。挑発するような言動は冷静に対処していくとよい。例えば、教師を挑発するようなことを言ってきた時、

「今は、そんなことを言う時間ではありません」

このような言葉で、**短く、冷静に毅然と対処するとよい。**

小さな声で言っている時や、周りの子にも聞こえていないような時は、いちいちとりあわず、無視するのもよい。

無視することで、「相手にしてくれないんだ」と思い、自然と減っていくことがよくある。

参考文献: 櫻又英尊 『特別支援コーディネーターに必要な基本スキル小事典』(明治図書)

### 【対応2】 子どもを癒す5つのスキルを使う

平山諭氏は、発達障がいの子どもへの対応として、次の5つのスキルを使うことを提唱している。

- ①「見つめる」
- ②「ほほえむ」
- ③「はなしかける」
- ④「ふれる」
- ⑤「ほめる」

脳の中に扁桃体という部位がある。この場所は、扁桃体は好き嫌いを感じる部分である。5つのスキルはいずれも、主に扁桃体に働きかけていく対応である。普段からこれらを使った対応をし、子ども達の脳を癒していくことが、何よりも大切である。

### 【対応3】 する時間や活動の内容を、数字などで明確に示す

「5分間、プリントをしましょう」と数字を明確に子どもに示すことで、子どもが見通しをもつことができる。

このような対応も、時には効果がある。

## 先生に「嫌」と言って反抗する子には 一枚上手の対応を

### 1 嫌々の神様がついてくるんだぞ

「嫌々の神様」のお話をエピソードのように具体的にわかりやすくします。

例えば、次のように話をします。

**「嫌々」って言ってたらね、「嫌々の神様」がついてくるんだぞ。**

ほら、そこの「嫌」がついてくる。

ほら、そこの「嫌」もついてくる。

**「ついてる、ついてる」と思ってる人には「ついてる神様」がついてくるんだ。**

嫌々嫌々言っていると「嫌の神様」が集まってくる。絶対に集まってくる。

「人相」という言葉があるけれども、生まれ持ったの顔をしてるんだ。

お父さんお母さんがね、生んでくれたと、だからいい顔をしてるんだ。

けれども、これがね、10年20年30年と生きていくと、嘘をついたら、「嘘をついた顔」になるんだ。

みんなテレビで見ない？あるいは交番なんか貼ってあるじゃない、「指名手配」。

あれは、とつても人相の悪い顔をしてる。

嘘をついてきたり、「嫌だ」「こんなのやっぺられない」と言う子は絶対そうなる。

間違いなくああいう顔になる。

犯罪者になると言うんじゃないよ。ああいう顔になってくる。そういうのが集まってくるんだ。

「みんなでドッジボールするぞ！」とか言うと、「嫌だー」と言う子が何人かいます。

すると、子ども達が口々に「嫌の神様が集まったぞー」とか、

**「嫌あー・・・なことはありません」とか言い出す**のです。

ですから、担任も「だろ？先生もそうだと思ったんだ」と明るく返すことができるのです。

## 2 みんなに聞いてみる

みんなでやろうと思っている時にね、「嫌だー」と言うのと「よし、やろう！」と言うのでは、  
**どっちがいい神様がついてくると思う？**

どっちが気持ちいいか尋ねます。

そして、

「どうせやるんだったらね、いい気でやった方がね、効率もいいし、身にもつくんだよな。

**同じようにやるんだったらさ、気持ちよくやった方がさ、みんなも気持ちいいよね」**

というようなことを言います。

甲本卓司『甲本卓司 提言集7 やんちゃに負けない学級づくりの極意』(明治図書)

### コラム

#### 脳内ホルモンの話で良い行動を意識させる

良いこと、悪いことが体に影響を及ぼすエピソードを話すことで、子ども達に自分自身の行動を振り返らせることができる。以下のようなエピソードが効果的である。

\*\*\*\*\*  
掃除をしたり、良いことをすると脳みその中にほんのちょっとだけ体によい薬みみたいなものが出てきます。

**エンドルフィン**といいます。

神奈川県にある病院の春山さんというお医者さんが頭の中にある脳みそについて研究をしました。そこでわかったことです。

その薬みみたいなものは、ちょっとぐらいの病気を治してしまうほどのものです。

お腹が痛い時、お母さんにお腹を触ってもらっていたら、だんだんとよくなってきたということがあるでしょ。あれは、そのホルモンで治っていくのです。

悪いことをしたり、言ったりすると、逆に困ることが起きるそうです。

脳みその中からほんのちょっとだけ毒が出るそうです。**ノルアドレナリン**といいます。その毒は、自然の中では**ヘビの毒と同じぐらいの毒**だそうです。

でもね、ほんのちょっとだけだから、それだけで体が病気になるとか、死んでしまうとかといったことはありません。しかし、とっても強い毒だから、体にいいわけありませんね。

毎日悪いことをしたり、言ったりしていれば、毎日毎日その毒が脳みその中に出ていくんです。

怖いですね。その毒は、少しずつ少しずつ脳の中を壊していくのです。

大恵信昭『特別支援を要する子の担任に必要なトラブル解決スキル事典』(明治図書)



## 事例 13

# 九九が覚えられない

ADHDの子の中には算数の苦手な子がいます。例えば九九が苦手な場合。計算の練習として、百マス計算をしているクラスがあります。また、あるクラスでは、九九尺を使って指導しています。特徴をみてみましょう。

## 場面



4年生で、まだかけ算九九を覚えていないOさん。

ADHD傾向で、授業中は落ち着きがありません。百マス計算のプリントを使って練習させようとしたのですが、「分から〜ん!」と言って、プリントをビリビリに破いてしまいました。

## 原因と対応を考える

Oさんが百マス計算のプリントをビリビリに破ってしまった原因は何でしょうか。また、そのような子には、どのように対応したらよいでしょうか。下に書きましょう。

原因

対応

## ■ 解説

### 【原因】 かける数、かけられる数を記憶しきれない

百マス計算をいくらやっても、九九を覚えていないADHDの子はできるようにならない。

百マス計算は、左にかけられる数字、上にかける数字がならんでいる。

かけられる数字とかける数字の交点に、数字を書き込む。

一番上の段は、まだかける数がすぐ上にあるので、何×何をすればよいか分かることもあるだろう(それすら厳しい子もいる。)

しかし、段が下がっていくにつれ、**かける数の距離と答えを記入するマスの位置が離れていく。**

ワーキングメモリが少ないADHDの子は、左のかけられる数を記憶したまま、何をかけるかを探さなければならない。

その距離が離れれば離れるほど、何×何をすればよいか、記憶しておくのは難しくなる。

指や鉛筆でたどっていても、何をかけてどこに書けばよいかわからなくなる。

したがって、今何をやっているか分からなくなり、パニックになる。

Oさんが「分から～ん！」と言って、紙をビリビリに破ったのは、ワーキングメモリの少ないOさんにとって、**数字を探し、対応させる作業が困難**であり、学習に集中できなかったことに原因がある。

百マス計算は、九九をきちんと覚えており、学習前などに脳を活性化させるために用いられるものであり、学力を保障したり、算数が苦手な子が得意になったりするためのものではないのだ。

### 【対応】 TOSS計算九九尺で九九を身につけられる

TOSSかけ算九九尺セットは、九九が覚えられない子にやさしい教材である。

B5サイズのイチゴシート、ドットシート、ブロックシートなどがついている。

九九尺を使って、具体物、半具体物とかけ算を対応させながら、九九を覚える。

次のような特徴がある。

(1) かけ算九九の数字の暗唱だけでなく、面積(四角)やドット(円形)の量とともに覚えることができる。

(2) かぎ型のシートを九九表の上でずらしながら口唱するので、量が一目で分かり、数字のみの暗唱に比べて、理解が正確で早くなる。

かぎ型のシートで、範囲を限定することで、余計な情報が制限される。

必要な情報は限定されて提示されるので、その中で考えることができる。

だから、ワーキングメモリの弱いADHDの子も、無理なく九九を習熟することができるのである。

参考文献: 飯間正広『特別支援コーディネーターに必要な基本スキル小事典』(明治図書)

## 九九が言えなかったり、間違ったりする子が TOSSかけ算九九計算尺セットで変わった！

### 1 算数嫌い

入学以来、算数がずっと「1」の子がいる。

テストの点数は常に10～20点。

4年生に進級した時点で、かけ算九九が言えなかったり間違ったりと完全でなかった。

学級担任からは、要特別支援対象児童として名前が挙げられていた。

当然算数は嫌いだった。

この子をどこまで伸ばしてやれるのか、自信はなかった。

授業は、一番おそれていた4年生のわり算筆算に突入した。

かけ算九九ができない子にとっては苦痛な時間となる。

通例、このような子には、かけ算九九表を持たせる。

この子には、TOSSかけ算九九尺セットを持たせた。

算数の時間は、いつもシート②③を机の上に用意させた。

### 2 通常の九九表と計算尺の違いは、シート②の尺

通常のかけ算九九表と計算尺の一番の違いは何か。

**シート②の尺**である。

通常のかけ算九九表には、尺がない。

算数の苦手な子は、九九表の中から目的の九九を見つけ出すことが苦手だ。

TOSSかけ算九九計算尺は、シート②の尺が目的の九九までナビゲートしてくれる。

子どもは、シート②の尺を動かしてすぐにお目当ての九九に到達する。

答えは、尺の矢印が示してくれる。

**視点が定まりにくい学習障害やADHDの子にはとてもとてもありがたい配慮**である。

その子も、九九を探すのが苦手だった。

しかし、計算尺のおかげで、すぐに答えにたどり着くことができた。

その子は、わり算筆算が全くできなかった。

毎日毎日板書を写し続けるだけだった。

練習問題は、他の子が8問する間に1問を自力で解いた。計算尺を使って。

2・3問目は、友達が書いた板書を写して時間切れとなる。

学習量は、他の子の3分の1以下である。

正直、「これで、できるようになるのだろうか？できなくてもしかたないな」なんて思っていた。

### 3 すぐできそうなことから話す

ある日、その子が次の日記を書いてきた。

きょう、3時間の、とき、わり算のひっさん、をするとき、かわた先生が、考えてくれました。だんだん算数が、たのしいと、かんじか、します。かわた先生が、たんになん、なつて、くらて、うれしかったです。(原文ママ)

(中略)算数大っ嫌いだった子が「だんだん好きになった」と言ってくれた。こんなうれしいことはない。

かけ算九九計算尺を頼りに、なんとか1問は自力で解けるようになっている。

他の子に比べたら微かな変化である。

昨年までの状態を考えると、大躍進である。

そのまま日々は過ぎていった。

計算尺はその子にプレゼントした。

ときおり、机に出しては、九九を唱えていた。

そして、私のところにやってくる。

「先生、7の段も言えるようになったよ」

実際に私の前で唱える。全問正解！

そして迎えた、単元末評価テスト。

その子は、計算尺なしでテストを受けた。

結果は80点。

昨年度まで、10～20点しか取れなかった子が80点を取った。

特別支援を要するとして名前が挙がっていた子が算数テストを普通に受けて80点を取った。「算数大っ嫌い」と言っていた子が、「だんだん楽しくなった」と言い始めた。

紛れもない子どもの事実が鳥肌が立った。(中略)

今年、計算尺に出会えて本当に良かった。心の底からそう思った。

河田孝文「向山型算数教え方教室」No.079 (明治図書)

## コラム

### 何年生になってもかけ算九九表を持たせよ

向山型算数をはじめてからもう何年にもなる。向山洋一教え方教室にも何度も参加した。その中で向山氏が、何度も主張しているのが

#### **「何年生になってもかけ算九九表を持たせよ」**

である。

2年生で学習するかけ算がマスターできなければその後の算数の学習はついていけない。それを改善するための手段である。

わり算を学習する際、かけ算ができなければ答えは全て間違ってしまう。その指導の際、かけ算九九表をその時に見れば、間違わずにわり算を学ぶことができる。

また、何度も九九表を見ることで苦手だったかけ算もできるようになる。3年生の終わり頃には、九九表を見なくてもできるようになっている。

また、渡すときの配慮も向山型算数である。「全員に渡す」のである。テストのときも見ているのだ。こんな主張は今までなかった。できない子は、できるようになり、テストで100点を取るようになった。事実で子ども達に自信をつけさせたのだ。

甲本卓司「向山型算数教え方教室」No.079 (明治図書)

## 事例 23

# 黄金の3日間

クラスに6%はいるといわれる発達障がいの児童。ADHDの児童を担任する可能性は、教師である以上、誰にでもあります。ここでは、始業式からの黄金の3日間で気をつけるポイントについて考えましょう。

## 場面



本年度、4年生を担当することになりました。新4年生には、前年度校内でも話題になっていたADHDのA君がいます。担任の言うことを聞かず、よく廊下に飛び出して、走り回っていた姿を見ています。他にもADHDではないかと疑われる児童が数名おり、不安でいっぱいです。

## 気をつけることを考える

ADHDの児童がいるクラスを担当するにあたり、始業式からの最初の3日間(黄金の3日間)で気をつけるポイントはなんでしょう。下に書きましょう。

## NG対応

### 繰り返し叱ったり注意したりする

黄金の3日間で、きちんと対応することは何よりも大切なことです。

だからと言って、叱ったり、注意をしたりするばかりでは、発達障がいを抱える子ども達との信頼関係を築くことはできません。

最初の3日間だからこそ、そういった子ども達の良いところを見つけ、自信をつけることがまずは大切です。

## ■ 解説

### 【1】 実態を掴む

黄金の3日間を迎えるにあたり、まず大切なことは、

#### 実態を掴むこと

である。

毎年新しく担任をするときには、前年度の担任からの引き継ぎがありますが、発達障がいをもつ児童を担当する場合には、より綿密に引き継ぎをしておかなければならない。

学習面、生活面、運動面、人間関係などについて、引き継ぎを受けますが、大雑把に聞くのではなく、**具体的に聞いておく**ことが大切だ。

例えば、国語なら、漢字の習得率は、何割ぐらいか。

算数なら、足し算、引き算はできるか、かけ算はできるか。

どういった場面でパニックになり、どういった場面で熱中するか。

そういったことを、1つひとつきちんと把握しておく必要がある。

加えて、必要があるならば、保護者とも連絡を取り、望ましい生活を送るために学校でできること、家庭でできることなどを確認しておくのもよい。

さらに、ADHDの児童を担当するなら、**ADHDに関連する書籍を何冊かは読む**など、障害特性に応じた正しい知識と対応の仕方を学んでおくことも大切だ。

### 【2】 指導の方針を決めておく

**指導の方針を決めておく**ことも大切なことだ。

ADHDの子は、他の子たちと同じように活動することが苦手である。

例えば、立ち歩いた時には、どのように対応するのか。

「座りなさい」と注意するのか、「教室を1週歩いたら座りましょう」と指示をするのか。

友達とけんかになった時はどうするか。

こういったことを、場当たりに指導しては、対応が後手後手にまわり、ひどいときには学級崩壊にもつながりかねない。

前年度困ったことなどを聞いて、あらゆる場面を想定して、どのように対応するかの方針をきちんと決めておくことが大切となる。

できれば**ノートなどにメモしておく**と、ブレずに一貫した指導をすることができる。

### 【3】 システムとルールを定着させる

そして何よりも大切なのは、「**システムとルール**」を定着させることである。

ここで作ったルールは、1年間で左右する大切なルールとなる。

ここできちんとシステムとルールを定着させることができれば、大幅にクラスが崩れることはない。

その際、できればADHDの子が活躍できる場面を設定することも大切である。

声が大きい子ならば、挨拶係に任命するなど、役割を持たせることができれば、褒めることができる。褒めることで、さらにルールを守るようになる。

参考文献：甲本卓司『甲本卓司 提言集10 ADHDの子に効果のある授業の原則七か条』(明治図書)

## 黄金の3日間で 一年間作用するシステムとルールを作り出す

毎日、目の離せない学級を担任することもある。毎日が、注意の連続という話もよく聞く。教師も余裕を持って対応したい。

私が、ある年、特別支援を要する子ども達を担任したときの「黄金の3日間」の心構えを紹介する。

端的に言うと、黄金の3日間はつぎのことを考える。

**一年間作用するシステムとルールを作り出せ！**

である。

### 1 ADHDの子がいるクラスで学級開き

ある年、ADHD等の子ども達が複数いるクラスを担任することになった。

まず、**子どもの実態**を掴まなければならない。

これは、絶対の条件となる。

引継ぎが、文書でされるならそれに目を通す。文書での引継ぎができない場合は、口頭で前担任に聞く。ここでの情報収集は極めて重要である。

例えば、ある子は、IQが70だった。

これは何を意味するかというと、10歳の子と、7歳の子と一緒に教室で勉強をするということだ。この理解なくしては、その子に学年相応の学力を保障できない。

私は、その子の家にいった。

3年生の1学期の単元に、「かけ算の筆算」がある。

2年生のかけざんの復習を家で行ってくれるように頼んだのだ。

「かけざんの単元があります。この間、2年生の復習をすると、忘れていたのもありましたので。その時にくれぐれも無理強いはしないでください。1日10問もすればいいですから」

保護者は、協力をしてくれた。家で練習を始めたのだ。

かけざんをたまに忘れることがあるが、家との協力で2桁×1桁のかけざんの筆算のテストは90点だった。

前もって情報を入手し、保護者との連携がうまくいった例である。

### 2 指導の方針

ADHD等の子どもが複数いる学級を担任するにあたり**指導方針**を決めた。

**絶対に 怒らない**

である。

自分が自分と約束をした。大きな声で怒るとそれだけでダメになる。それは、よい行動が入らなくなるということだ。一度、大きな声でどなただけでそれまでの苦労が水の泡となる。

よい行動は、ほめることにした。いや、よい行動でなくともほめた。**ほめてほめてほめまくる**……これを「黄金の3日間」にできるだけすることにした。

**マイナスの行動も「見逃す」**ことにした。落ち着いてから諭すように話した。

### 3 黄金の3日間

黄金の3日間は、次の3つを意識した。

- 1) クラスのシステムをつくることに全力をあげる。
- 2) クラスの子ども達との人間関係をよくすることを考える
- 3) 出会いの授業を工夫する。

授業の中で、規律を指導する。

学級経営は、授業と表裏一体なのだ。

規律は、ルールを守ることの指導でもある。

システムの中に、「約束を守る」ことを必ず入れる。

これは、ADHDの子にもよくわかる。

「約束を破ったことがいけないんだ」「ルールを守らなければダメです」

こうした繰り返し使えるルール、約束を守ることを3日間に意識すればよい。

例えば、算数授業でミニ定規を使う。このミニ定規を使うことも約束である。

約束を守れたのか、守れなかったのかを評定すればよい。

ちゃんとミニ定規を使って問題を解いていれば、合格である。

あとは、子ども達と楽しく過ごして、明るい学級を作ればよい。

ルールが守れたらほめることを何度もするのだ。

私は、1学期の間、毎日子ども達と外でサッカーをして遊んだ。

遊びの中で見えてくるものはいっぱいあった。

子ども達の人間関係。トラブルの原因。トラブルの対処法。

休み時間を無法地帯にすると、トラブルが大きくなり、事件へと発展する。

そういった意味でも子ども達と休み時間を過ごすことは極めて有効であった。

### 4 システムとルール

この「黄金の3日間」を意識して全力で当たる。ここで作ったシステムは一年間作用する。崩れそうになれば、この「黄金の3日間」にかえればよい。私もクラスが、崩れそうになったときは、いつも「黄金の3日間」にかえる。

ルールを書いた紙の前に連れていく。そして、守れていない一条を読ませる。大きな声でクラス全体に聞こえるように読むのだ。読んでいる間に、反省をする。それは、集団の中で読んでいるからだ。

#### システムとルール

このキーワードで、「黄金の3日間」を乗り切れ！



# 保護者との懇談

発達障がいと思われる子には、きちんとした専門機関での診断が必要です。そのためには、保護者に子どもの様子を正しく話し、理解をしてもらうことが大切です。保護者への対応の仕方を考えましょう。

## 場面



3年生のB君は、机の上が片付けられず、授業中もじっと座っていることが苦手です。落ち着きがなく、友だちにちょっかいを出すことも多いので、ADHDではないかと思われます。B君の保護者を読んで専門機関で診断を受けるよう話をしたいのですが。

## 気をつけること

保護者にB君の実態を話し、専門機関への診断につなげるために、気をつけることは何でしょうか。下に書きましょう。

## NG対応

### 悪いところばかり伝える

「学校で困っています。」「授業中、うるさくてたまりません」

「ぜひ、B君を病院でみてもらって下さい」

もし、保護者の立場で、このような伝え方を学校からされたらどうでしょうか。恐らく、「うちの子どもにも良いところはある」「学校の方でもなんとかして欲しい」「かわいい子を病気と決めつけて許せない」このように学校に反発するのではないのでしょうか。

大恵信昭『特別支援を要する子の担任に必要なトラブル解決スキル事典』(明治図書)

## ■ 解説

### 【1】 本人と保護者の味方の立場で話していく

子どもの受診は、何よりも本人と、将来にも関わっていく保護者のためである。たとえば次のように伝える。

「とってもよく頑張っています。ただ、他の子と同じように45分間、席についていることは難しいです」  
「B君も、授業に集中できずに困っているかもしれません」  
「家でお困りのことはありませんか？」  
「医療の力を借りることで、B君の力をより引き出せるかもしれませんね」

本人と保護者の味方の立場で話していくことが何よりも大切である。

### 【2】 教員が複数で対応し、伝えていく

担任と保護者との信頼関係が十分にあり、保護者もある程度、受診の必要性を認めている場合、1のような伝え方をしていけば良い。

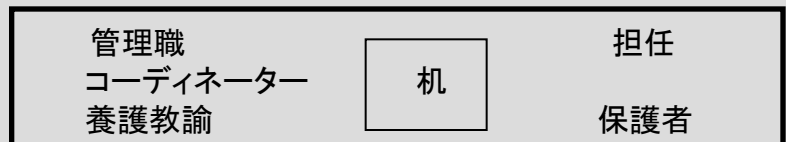
しかし、保護者が受診の必要性を十分に認めていない時など、トラブルに発展する危険性もある。

伝える内容とともに、伝える場の設定も大切である。

このような時、**教員が複数で対応し、伝えていくことが大原則**である。

管理職や、特別支援コーディネーター、さらには医療的な関連も深い養護教諭も立ち会えると良い。

座り方の例である。



ポイントは、**担任は、保護者のそばに座り、保護者と一緒に話を聞くように**することである。

保護者に伝えたい内容は、あらかじめ、管理職や、コーディネーター、養護教諭に伝えておく。これらの人の口から、保護者に伝えていった方が良い。

このようにすることで、保護者と担任との関係がこじれ、後の指導がしにくいような状況を未然に防ぐことができる。

保護者も、学校からよってたかって、医療機関を勧められたという印象をもつことがない。内容を受け入れやすくなる。

### 【3】 保護者の反応を見ながら、少しずつ提示していく

医療機関が受診ができ、本人にあった適切な投薬などがなされると、学校生活が改善されていく希望が持てる。特にADHDの子どもへのコンサータ投与などは、こうした例が多い。

しかし、受診を決めるのはあくまでも、保護者と本人である。焦って1回の話し合いで決めようとしなない。

**保護者の反応を見ながら、少しずつ提示していく。**

大恵信昭『特別支援を要する子の担任に必要なトラブル解決スキル事典』(明治図書)

# たくさんの要望を伝えてくる保護者への対応

## 1 保護者からの要望を宝物と考える

慌ただしい毎日の中、事務処理に追われ、少ない時間の合間に授業の準備している。個人懇談を求められ、授業や、その他の学校生活でのたくさんの要望を伝えられる。連絡帳を使って、こうした要望が伝えられることも多い。

このような時、内心、うんざりしてしまうことはないだろうか。

しかし、子どもの状態が一番わかっているのは、保護者である。

特に特別支援を要する子の場合、入ってくる情報が多すぎて困ることはない。

要望をきいていく中で、現在の様子や、今後指導していきたいことなどのアイデアが生まれてくることも多い。

また、保護者からの要望は、担任に対する期待の裏返しとも言える。

### 保護者からの要望を宝物と考える。

要望を前向きに捉えることがまずは大切である。

## 2 保護者の要望をまずはいったん聞く

担任の要望を前向きに聞いている態度は、保護者にも伝わる。

もし「迷惑だ」「時間をとられる」「嫌だなあ」と思っている場合。その気持ちは保護者にも伝わってしまうだろう。

こうなると、保護者はますます、一生懸命、要望を伝えなくてはと思う。

結果的に時間も長くなってしまう。

保護者の話を聞いていく上でのポイントは、以下である。

### 要望をまずはいったん聞く。

いろんなことを伝えられる。中にはできそうにないと思うこともあるだろう。そのような場合にも、保護者の話を途中でさえぎり、「それは難しいです」と言わない方が良い。否定されるとその部分に保護者は反応し、むきになってしまう。いったんは、すべて聞く。

うなずきながら、時にはメモをとりながら、真剣に対応するのは言うまでもない。

**担任が真剣に聞いてくれたと思うだけで、安心する。**安心が信頼に変わっていくことで、後の話も容易になる。

## 3 すぐにできることから話す

保護者がすべて話し終えた後が、非常に重要である。

よくある失敗は、この後、できないことを返答して、話がこじれてしまうケースである。

保護者の話の中で、すぐに明日からでもできることもあるだろう。話す順番は、以下が良い。

すぐにできること→できそうなこと→難しそうなこと

**すぐにできることをまず話す。**明日から即座に取り組んでいきたいことを伝えていけば良い。

これで、保護者からの信頼度もさらにアップする。

次にできそうなことを話す。周りの先生や子ども達の協力もいるようなことである。できるだけ肯定的に、早く実現していきたいことが伝われば良いだろう。

最後に難しそうなことも伝えていく。できそうにないことまで、全部受け入れ、後で実施できない場合、トラブルになることもある。**安易な約束は厳禁**である。

## 4 複数で対応する

電話や連絡帳での要望だけでなく、個人懇談を求められた場合、**できるだけ複数で対応**したほうが良い。

特別支援学級や特別支援学校で複数で担任している場合は、それらの教師、学年主任や、教頭などである。

**特に、保護者の要望が明らかに理不尽な時、複数での対応が絶対条件となる。**

いわゆる、モンスターペアレントの場合である。

保護者1人と、教師複数となると、それだけで、勢いがそがれることも多い。

話した内容は、複数の人が聞いており、また記録も容易になる。後々のトラブルを小さくすることにつながる。

原則を踏まえた対応をすれば、要望をされる保護者との関係が深くなり、後々までの応援団になってくれることも多い。普通の保護者に誤った対応をしてしまい、モンスターペアレントにしてしまうような状況を防がなければならない。

大恵信昭『特別支援を要する子の担任に必要なトラブル解決スキル事典』明治図書

### コラム

## ADHDの子とコンサータ錠

特別支援を要する子の場合、医師の診療の結果、薬が処方されることがある。

ADHDの子へは、コンサータ錠が処方されることがある。

コンサータは、一般的に12時間ほど効果が続く。朝、一度飲んでおけば、夕食後まで効果が保たれる。

服薬によって、多動や衝動が抑えられたり、注意力が補われたりといった、良い状態を作ることができる。服薬だけで満足してはいけませんが、医師の診断がある場合、服薬は望ましい状態をつくるための1つの方法である。

大恵信昭『特別支援を要する子の担任に必要なトラブル解決スキル事典』（明治図書）